

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 富野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

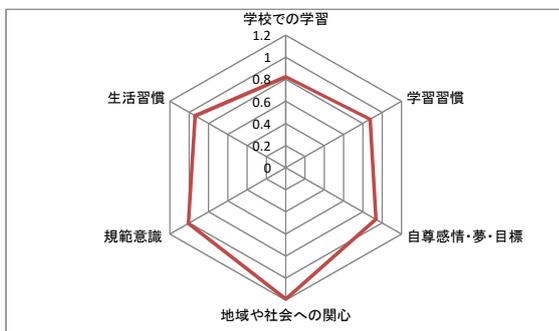
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率								
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていたが、無解答率は多くの問題で全国平均無解答率より下回っていた。 ・文の成分や構成を考えて、適切な文を書く力をつけさせる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文脈に即して正しく漢字を読む問題は正答率は、他の問題の正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	伝えたい事実や事柄を相手にわかりやすく伝えるように書く問題、古文の問題の正答率は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていたが、文章の内容や質問の意図をとらえる問題は全国平均正答率との差が小さく、文章を読み取る力がついてきた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の構成や展開について自分の考えをもつ問題は、他の問題の正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	相手に的確に伝わるように、あらずじを捉えて書く問題の正答率は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全体的に全国平均正答率を下回っていたが、文字式の計算・比例式などの数学的な技能は身につけてきた。 ・関数の領域は、他の領域(数と式、図形、資料の活用)よりも平均正答率は下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数直線の問題、文字式の計算、対称な図形、投影図の問題は、他の問題の正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	確率の意味、一次関数の意味などを問う問題の正答率は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・数学的な表現を用いて説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりするような問題に対して記述できる力をつけさせる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈する問題は、他の問題の正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・選択式の問題は意欲的に解答していた。また、全国平均正答率を上回る問題もあった。 ・考察した理由を指摘する問題に対して記述できる力をつけさせる必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	光の反射の問題、濃度に関する問題は、全国平均正答率よりも上回っていた。	
	努力が必要な問題	原子や分子のモデルで説明する問題、植物の蒸散以外の原因を指摘する問題は、他の問題の正答率よりも下回っていた。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識に関する部分は、全国平均よりも高くなっている。</li> <li>・地域の行事に積極的に参加しており、地域や社会への関心は全国平均よりも高くなっている。</li> <li>・家で学校の宿題をしたり、自分で計画を立てて勉強したりするなど、家庭学習の習慣が身につけてきている。しかし、家庭学習の時間は全国平均よりも低い値にあるので継続的な取組を行う必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

調査結果から明らかになった課題の解決のために、朝読書・授業・補充学習(富野タイム)・自主学習ノート(富野ノート)の一体的な取組を継続・徹底する。  
 ①朝読書・・・文章を読み取る力や文章を書く力が身につくように、継続して取り組む。 ②授業・・・自分の考えを自分の言葉で書く力が身につくように、授業の「まとめ」「振り返り」を自分の言葉で書くことに取り組む。  
 ③補充学習・・・継続して基礎基本の問題を取り組み、定着を図る。教科担任は、生徒が分かるまで対応する。  
 ④自主学習ノート・・・家庭学習の習慣が身につくように、毎日、自主学習ノートに取り組む。自主学習ノートの提出を徹底する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・生徒・保護者・教職員が一体となって学力向上のために取り組んでいくために、朝読書・授業・補充学習・自主学習ノートについてまとめた「よい学び方」ハンドブックを配布し、活用していく。  
 ・生徒指導通信を通して、携帯電話の使用時間・使い方・マナーについて啓発活動を行っていく。